

# BOOKS OF THE YEAR 2012 Vol.2

南部町の図書館職員が選ぶ、今年読んだ本の中で一番心に残った本の紹介「BOOKS OF THE YEAR 2012」  
第2弾！未読の方はぜひ読んでみてくださいね！！

## 『かのこちゃんとマドレーヌ夫人』



まきめまなぶ  
万城目学／筑摩書房

「ホルモー」「鹿男」「トヨトミ」でもない、新感覚の万城目ワールド。元気な小1、かのこちゃんとすずちゃんの、かわいくて強い友情に鼻の奥がツンとなり、気品ある優雅な猫、マドレーヌ夫人と玄三郎には理想の夫婦の姿をみました。

(公共H)

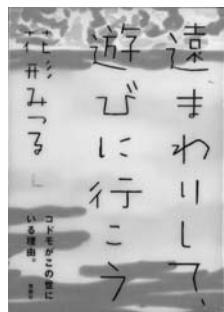
## 『オトことば』



おとけひろただ  
乙武洋匡／文藝春秋

「五体不満足」の乙武さんが、ツイッターでつぶやいた教育のことや、障がいのこと等が綴られています。日々のつぶやきの中に“いま”を生きる乙武さんの素顔が見えるような1冊。大切な家族のことも書かれています。あなたの大切な人と読んでみてください。 (公共K)

## 『遠まわりして、遊びに行こう』 花形みつる／理論社



時間を忘れて全力で走り回って、大声を出して、真剣に遊ぶ。それだけのことが、本当にかげがえのないことだったんだなと思えます。

全体を彩る季節や、風景の描写も情感たっぷりていい味わいです。瑞々しくて、甘酸っぱいお話です。

(学校T)

## 『白ゆき姫殺人事件』 湊かなえ／集英社



湊かなえ作品はダークなものが多く、読み終わった後にグッタリすることが多々ありますが、今回の作品は一風変わった構成のミステリとなっています。被害者と、被疑者の関係者の証言を元に展開していきます。読んだ後に、ウワサ話や周囲からの自分への評価や印象って、時としてコワイんだなとシミジミ思いました。 (公共N)

## 『きみはいい子』



中脇初枝／ポプラ社

“虐待”がテーマだと知り読んだ本。5つの話からなる連作集。虐待、ネグレクト、介護問題…。桜が丘という新しい町で、それぞれの家族がそれぞれの事情をかかえて生きている。やさしい文章に潜む、誰もが隣合わせにある現実には、読みながら心がヒリヒリした。明確な解決が示されているわけではない。それでも、ひとすじの希望にすがりたいと願うのだ。

(公共T)

## 『空とぶタイヤ』 池井戸潤／実業之日本社



トレーラーの走行中に外れたタイヤは、凶器と化し、通りがかりの母子を襲った。タイヤが飛んだ原因は「整備不良」なのか、それとも…。容疑者と目された赤松社長は、たった一つの真相を求めて奔走するも、公私ともに八方ふさがりに…。いったい、この窮地から這い上がる日は来るのだろうか。意外な結末に辿りつくとき、さわやかな読後感に包まれます。 (公共)

## 『雪は天からの手紙 中谷宇吉郎エッセイ集』 池内了／岩波書店



世界ではじめて人工雪を作ることになった中谷宇吉郎博士の随筆である。北海道という北の大地での研究の日々がにじみで、その人柄とともに伝わってくる。表紙絵の美しい雪の結晶は博士自身のスケッチ。2012年は、博士没後50周年でした。

(学校N)

## 《その他おススメの本》

- 『ゆきひらの話 安房直子名作絵童話』  
あわなおこ 安房直子／偕成社
- 『ホビットの冒険』 トールキン／岩波書店
- 『十二単衣を着た悪魔』 内館牧子／幻冬舎

★こちらに掲載の本はすべて南部町立図書館で借りることができます。貸出中の本は予約ができますので、お気軽に図書館職員にお尋ねください。

(注)ここに掲載した本は今年出版された本に限られません。

## 【臨時休館のお知らせ】

■休館期間■ 2月20日(水)～27日(水)

南部町立図書館では上記の期間中、蔵書点検のため法勝寺図書館、天萬図書館を休館させていただきます。ご利用の皆様にはご迷惑をおかけしますが、ご理解とご協力をお願いします。

